

令和7年度 長崎北陽台高等学校学校経営方針

○校訓（二綱・三領）

二綱 「自学・創造」

三領 「やさしく・きびしく・たくましく」

Ⅰ スクール・ミッション（長崎県教育委員会提示）

（１）どのような生徒を育成するのか〔社会的役割〕

自ら学び、よりよい人生を創造するとともに、長崎県をはじめ世界の持続的な成長・発展に貢献することができる「知・徳・体」のバランスのとれた人材を育成します。

（２）どのような教育を目指すのか〔教育理念〕

各教科の授業や総合的な探究の時間における課題研究、さらにホームルーム活動や生徒会活動、学校行事といった教育活動を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びを支援する教育を目指します。

（３）学校の特色、強み、魅力（独自の教育）等〔今後の方向性〕

大学や企業などとの連携により、地元はもとより国内外の諸問題を発見し、その解決策を模索する探究的な学びを実践します。また、海外修学旅行や様々な研修を通して、多様な文化や価値観を学び、広く多面的な視野と寛容さを身につけることができる教育プログラムに取り組みます。

２ スクール・ポリシー

（１）グラデュエーション・ポリシー（育成したい生徒像）

よりよい人生を創造するとともに、長崎県をはじめ世界の持続的な成長・発展に貢献するために必要な資質・能力である、「知力」・「徳力」・「体力」をバランスよく身に付けた生徒を育成します。

卒業時に生徒に身に付けさせたい資質・能力

① 「知力」は、自分の希望する進路を実現するために必要な学力はもとより、学んだことを活用して新しい価値観等を創造していく力と意欲をさします。

② 「徳力」は、社会的課題や学術的疑問を解決するために必要な、情報を収集・分析する力、協働する力、持続する力、実践する力などをさします。

③ 「体力」は、変化の激しい社会を生き抜くための基盤となるものであり、持久力などの総合的な身体能力とスポーツに親しみ健康に生きようとする姿勢をさします。

【本校のG Pに込められた思い】

「知力」「体力」がある程度測定できる認知能力であるのに対し、「徳力」は、意欲・意思、自覚し見渡す能力、思いやり、協働する力など、測定しにくい非認知能力と捉えることができ、他者への尊敬と謙虚さがその根底になければならない。

「徳力」は一種の哲学のようなもので、文化・スポーツ・学校行事などを通した人

間関係から身につけられるものであり、答えなき答えを探究する過程で高めることができるものである。言わば、人生を航海に例えるならば「知力」「体力」が船のエンジンや舵であり、「徳力」は羅針盤のようなものである。つまり、「徳力」は身につけた知識・技能や思考力を「何のために」「どのように」使うかという判断基準であり、「知力」「体力」をコントロールする力である。

今、現代社会は困難かつ予測不可能なVUCAの時代に直面している。だからこそ、長崎北陽台生には、この3つの力をバランスよく身につけ、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創造していくのか？どのように社会や人生をより良いものにしていくのか？という課題意識をもって、邁進してほしいと願う。

(補足)「VUCA」とは、Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) という4つの単語の頭文字をとった言葉

(2) カリキュラム・ポリシー (教育活動の方針)

卒業時に求める資質・能力が生徒に身に付くように、3年間を見据えて、次のような方針で教育活動を行います。

① 各教科

計画的に教育活動を行うとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びを支援します。

② 探究的な学び

大学や地元自治体、企業などと連携するとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びを支援します。

③ 特別活動

計画的にホームルーム活動や生徒会活動、学校行事に取り組ませるとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びを支援します。

(3) アドミッション・ポリシー (求める生徒像)

本校に入学する生徒には、次の資質・能力を求めます。

【普通科】

- ① 本校が育成したい生徒像への共感と十分な理解を備えた生徒
- ② 本校の教育活動に取り組むための基礎学力と確立した生活習慣を備えた生徒
- ③ 本校の部活動や学校行事等に取り組むための基礎体力と活動意欲を備えた生徒
- ④ 本校で自分を伸ばし他者を尊重しようとする意欲と態度を備えた生徒

【文理探究科】

- ① 本校が育成したい生徒像への共感と十分な理解を備えた生徒
- ② 本校の教育活動に取り組むための高い学力と確立した生活習慣を備えた生徒
- ③ 本校の部活動や学校行事等に取り組むための基礎体力と活動意欲を備えた生徒
- ④ 本校で自分を伸ばし他者を尊重しようとする意欲と態度を備えた生徒
- ⑤ 社会の中の多様な事象に対して問題意識を持ち、旺盛な好奇心と探究心で多面的に見つめ、その問題の解決を模索しようという情熱を備えた生徒

3 令和7年度学校経営の理念及び基本方針

学習指導要領では、すべての生徒が必要な資質・能力を共通して身につけられるようにする「共通性の確保」及び生徒一人ひとりの個性や実態に応じて多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」がより一層求められている。

また、学校を取り巻く社会環境が確実に変化していく中で、長崎北陽台高校として守るべきもの、変わるべきものが何なのかを見極め、創立50周年に向け、校訓「二綱・三領」の精神を具現化するために必要な学校改革の道筋をつける1年にしたい。

その上で、個々の教員の資質・能力「教師力」と学校としての組織的指導力「学校力」の一層の向上を図り、本校教育活動のさらなる充実に努める。

4 令和7年度教育活動の重点目標

(1) 生徒一人ひとりの進路実現に向けた不断の授業改善

- ① 主体的で対話的な深い学びを追究する質の高い授業の実施
 - ・効果的なICTの活用及び教育DXの推進（個別最適化と事務作業の効率化）
※教育DX：教育活動において、データ及びICTツールを活用することで、教育手法や手段、教職員の業務作業などを変革すること
 - ・既習内容を確実に定着させるための演習や個別最適な課題の強化
- ② 指導と評価の一体化（シラバスの可視化）
 - ・適正な観点別学習状況評価の実施と研究
 - ・明確な到達目標の設定と振り返りを重視した取組

(2) 新たな価値の創造につながる探究的な学びの推進

- ① 総合的な探究の時間、理数探究基礎、理数探究の一層の充実と取組の継続
 - ・大学、自治体、企業等と連携したフィールド・リサーチの充実
 - ・問いを立てる力や深く思考する力を高める指導方法の研究
- ② 各教科・科目の学習と総合的な探究の時間との相互連携
 - ・探究的な学びの推進に向けた教科会・研修会の実施
 - ・効果的なICTの活用及び教育DXの推進

(3) 自尊感情や自己肯定感を高め、新たなことにチャレンジする生徒の育成

- ① 発達支持的生徒指導と課題未然防止教育の充実
 - ・日々の挨拶、声かけ、対話、行事等を通じた個と集団への働きかけ
 - ・いじめ防止教育、情報モラル教育等の強化
- ② 自信と誇りを持ち充足感のある学校生活を自ら創造するための支援
 - ・学校行事や学年集会の在り方、進め方の工夫と検証
 - ・学習と部活動との両立を図るための指導

(4) 学びあい支えあう教員集団

- ① 学び続ける教員集団（システム及びプラットフォームの利活用）
 - ・計画的でタイムリーな内容の研修の実施
 - ・必要な人が必要なときに学ぶことができる環境づくり
- ② 互いの仕事の境目を大切にしたい温かい教員集団
 - ・情報を共有し、支えあい、協力して事に当たる体制づくり
 - ・職員同士の声かけ、コミュニケーションの活性化

(5) 働き方改革の積極的な推進

① 勤務時間管理と健康管理

- ・ワーク・ライフ・バランスを意識した計画的な年休等の取得
- ・フレックスタイムの積極的な活用

② 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化

- ・行事の精選と統合、準備等の簡素化
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用と連携
- ・部活動外部指導者の活用と部活動の確実な休養日の設定

③ 学校を組織として効率的に運営

- ・業務分担のペアリング（若手とベテラン）と業務平準化の調整
- ・各業務や行事のマニュアル化と情報共有・引継ぎの徹底
- ・各種会議・委員会のメンバー精選、ペーパーレス化
- ・校務支援システム（百問繚乱など）の活用と教育ＤＸの推進